

# I. 事業の状況

## 1 総括

当研究所は、わが国教育の刷新充実に寄与することを目的として、昭和41年7月の設立以来50年近くにわたり、文部省・文部科学省の管下で、主として初等中等教育の分野での事業を進めてきました。

平成22年12月より現理事長の新しい体制に引き継がれるとともに、公益法人制度の改革に対応して、平成24年に内閣府より公益財団法人の認定を受けました。平成26年からは医学・医療eラーニングなどの新たな分野へ公益事業を拡大してきております。

平成29年12月には、八重洲周辺の再開発事業に伴い3年余を過ごした八重洲オンキョービルから築地の地へと事務所を移転しました。

本年度は次のような事業を行いました。

◎ 小・中学校や研究団体への研究助成では、公募をへて小学校4校、中学校1校、3研究団体、1学会に助成を行いました。研究テーマのキーワードをみると、「望ましい生活習慣と体力向上」、「学び合い学習」「対話的で深い学びの実践」「脱メディア依存」「地域で協働で進める防災学習」「言語技術を使った授業実践」「生き生きと学ぶ算数・数学的活動」「大学から地域へ。科学的リテラシーを育む」「家庭教育の普及と支援者養成」などでした。

◎ 前年度の研究成果は「教育研究情報」誌に掲載し、教育関係の諸機関・諸団体に教育資料として寄贈し、成果の普及を図りました。

◎ 野外教育では、独自に開発した教材（アイオレシート）を使い、自然体験活動の指導者を養成する講習会を、文部科学省などの後援も得て、岐阜県などで複数回開催しました。また、「野外教育情報」ニュースレターを年2回発行し、関係諸機関・諸団体等へ寄贈しました。

◎ 医学・医療分野では、eラーニングを計画あるいは実施している学会等に働きかけ、日本癌治療学会、日本小児難治喘息・アレルギー学会、日本小児アレルギー学会の総会・学術集会等の講演・講義を収録・編集し、当研究所のMEDI@（メディアット）システムにより映像コンテンツを配信しました。また、「がん医療ネットワークナビゲーター」の資格認定のためのeラーニングの管理・運営、日本癌治療学会の専門医養成のためのコンテンツの制作と配信、日本泌尿器科学会の専門医単位更新のための講演配信サービスなど、継続しつつ実績を挙げております。

◎ 視覚障害者を対象とした「世界点字作文コンクール」の共同主催事業は、第15回めを実施し、国内・海外部門でそれぞれの優秀作品を表彰しました。入選作は点字本にて公共図書館に寄贈しました。

今後とも公益認定事業の中で着実な展開を図り、実りある成果を挙げていく所存ですので、ご指導とご支援をお願い申し上げます。

## 2 助成等事業概要

### A. 研究実践校への助成

《時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざした意欲的な研究に取り組んでいる学校に対して、公募のうえ、助成を行った。》

- ① 特別活動 東京都 中野区立 武蔵台小学校 (校長：戸崎 晃)  
テーマ 『望ましい生活習慣・家庭学習習慣の確立と体力・運動能力の向上を目指して』  
要旨 確かな学力、健康な身体を効果的につくっていくには、学校・家庭・地域が連携して活動に取り組むことが不可欠。推進している家庭学習強化月間では家庭学習の手引きを配布し、児童の電子メディアの身体への影響については講師を招き保護者向け講演会と児童向けの講話を実施した。年間を通しての体育朝会や外遊びで体力の向上に取り組み、体力向上月間にはオリンピック金メダリスト女子ソフトボール選手を招いて講話や投げ方の指導をしていた。
- ② 全教科・全領域 神奈川県 座間市立 相武台東小学校 (校長：金子憲勝)  
テーマ 『心豊かに生き生きと活動する子を目指して — 学び合うことを中心に —』  
要旨 これまで「聴く」ことの研究を進めてきたが、今回は互いの思いや考えを受けとめ合い「学び合う」ことに焦点をあてた校内研究を計画的に行った。その際に外部講師（山本金五先生）を招き講演と指導を受けた。また、本の読み聞かせ、合唱練習など多様な異学年交流、ネーチャーゲームや福祉体験、農家の収穫体験など地域の方々と学び合い、掲示物の充実と工夫など、さまざまな学び合い学習を行った。
- ③ 環境教育 京都府 木津川市立 城山台小学校 (校長：安倉晃一)  
テーマ 『自然・人・社会とつながり主体的に未来を創る児童の育成』  
— 「学びのゴール」を明確にした、対話的で深い学びの実践 —  
要旨 エコスクール・パイロットモデル校として開校し、環境教育を柱に、人・自然・社会とのつながりを深めることで学力の向上を図り、他者と協働的に問題を解決していくために必要な資質・能力の育成をめざし研究に取り組んできた。これを進めて、生活科・総合的な学習の時間における話し合い活動を軸に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、「城山台小式授業スタンダード」として確立し、探求的な学習を各教科に取り入れた。
- ④ 健康教育 岡山県 鏡野町立 香々美小学校 (校長：小山 格)  
テーマ 『イキイキ生活で脱メディア依存』  
要旨 メディアとの過剰な接触で、子どもの体力や運動能力、学力、コミュニケーション能力を育てる機会が奪われている。そこで、長時間のメディア接触の害について講演会を行い、保護者や地域の子育て団体とともに「科学的な学び」を行った。日常生活を見直し、メディアとは異なる楽しく魅力的な遊びを体験させ、授業中の姿勢、掃除、給食、休憩時間等、意識的に身体を使うことで育つ力を実感させ、子ども達が意欲的・健康的に生活を送り、メディア依存に向かわない力を育てていけるようにした。
- ⑤ 防災教育 宮崎県 延岡市立 旭中学校 (校長：谷口史子)  
テーマ 『主体的に周りや地域に関わる中学生の育成』  
— 地域で協働で進める防災学習や交流活動を通して —  
要旨 地域の方々と協働で進める防災学習や地域団体と協働で進める交流活動を通

して、生徒に新たな人間関係構築の場を設定し、積極的に周りに関わる態度を育て、地域の一員としての自覚を高めた。外部講師や地域人材の積極的な活用により生徒の納得と生きた学力につながる充実した学習活動を展開した。少人数グループでの協働的な学習の展開、体験活動を取り入れることで、学びに向かう主体的な態度を育てた。

計 999,244円

## B. 教育現場（地域研究団体）への助成

《地域等で特色のある研究や実践を行っている研究団体や学会に対して助成を行った。》

### ① 高知県／言語技術教育研究会 代表 梶原和美（香美市立山田小学校教諭）

テーマ 『言語活動の充実を図る言語技術を使った授業展開の研究』

要旨 思考力・表現力を育む「言語活動の充実」を図るため、「言語技術」を使った授業展開の研究と実践を行った。高知県立青少年センター、高知大学教育学部、香美市立片地小学校などで、言語技術をテーマに年間6回の研修会を実施した（参加者合計123名）。先進的な取組を行っている広島県の先生方を招き、演習を通して互いの授業力を高め、高知県東部地域における教員の指導力を向上させた。

### ② 新潟県／コンパスの会（新潟算数・数学教育研究会）

代表 小畑 裕（新潟市立両川中学校長）

テーマ 『児童・生徒が生き生きと学ぶ算数・数学的活動の追究』

要旨 研究テーマのもと、会員が研究・研修を積み重ねることを通じて、会員個々の資質・能力を高めるとともに、児童・生徒の学力の向上を図った。算数・数学科における、「個に応じた指導」、「基礎的・基本的な学力の定着」、「思考力・判断力・表現力を培う算数・数学的活動」、「小中学校9か年を見通した指導の工夫」を研究実践した。新潟市総合教育センター、新潟ユニゾンプラザ、砺波市立砺波東小学校、新潟市立東中野山中学校、新潟市立巻南小学校を会場に、講演会3回、セミナー1回、実践発表会4回を行った。

### ③ 鹿児島県／鹿児島大学若手教員サイエンスカフェの会

代表 飯笹英一（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科助教）

テーマ 「大学から地域へ 学びの意欲と科学リテラシーを育む教育」

— サイエンスカフェを通して —

要旨 鹿児島市内のカフェ、かごしま健康の森公園、上甕島カフェで計11回開催。「焼酎醸造の微生物の個性」「蛍の光の観察」「最新の天の川研究」「作物の品種改良技術ゲノム編集とは」「放射線の正しい理解」「感染症と人類の戦い」「科学で読み解く食べ物の力」「光の科学」などをテーマとし、地域の人々と児童・生徒の学びへの意欲と科学リテラシーの向上を図り、地域内での異世代間のつながりを育んだ。出席者の合計207名。うち小中学生54名であった。

### ④ 日本家庭教育学会

会長 中田雅俊（八洲学園大学教授）

テーマ 『家庭教育に関する理論的・実践的研究』

要旨 本学会は1986年の設立以来、家庭教育に関する学問的研究を促進し、実生活における家庭教育の普及や支援者養成を進めている。メインの大会（第32回）は「家庭において引き継がれるべきもの—女性論・身体論の観点から」を主題として開催した。中田雅俊会長の「家庭教育と幸福感」のほか、19名の個人研究発表、三砂ちずる（津田塾大学教授）氏の講演、パネルディスカッションなどを行った。他に「家庭教育研究23号」「家庭フォーラム28号」の発行、家庭教育師資格認定、家庭教育学構築の研究会、家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会、会報発行など。

計 600,000円

## C. 野外教育活動の推進

《野外教育活動〔とくに自然体験活動〕のいっそうの充実と推進に向けて、指導者養成の講習会を実施した。また、自然体験活動に関する情報と実践等を集めた「野外教育情報」ニュースレターを発行し、教育関係の諸機関・諸団体に寄贈し、知見の普及を図った。》

### ○ 野外教育活動の指導者講習会の開催

自然の中で、ゲーム的な要素も取り入れ、子どもたちが楽しく自然体験活動を行える指導方法（アウトドアゲーム）の普及及び、野外教育指導者の養成と指導技術の向上を図る目的で実施した。学校教育・社会教育・学生・民間団体の関係者などを対象に、独自に開発したパッケージド・プログラム（アイオレシート）を教材として使用し、指導方法、安全管理、ゲーム創作などを含めて、実習形式で指導した。次の3つの講習会を開催した。

- ① 2泊3日コースの講習会 文部科学省・日本キャンプ協会の後援を得て、国立青少年教育振興機構の次の施設において、6人の講師により実施した。1都1府12県から27名の参加があった。

平成29年10月7日～10月9日「国立乗鞍青少年交流の家」（岐阜県高山市）

- ② 1泊2日コースの講習会 高知県において、国立青少年教育振興機構の施設の事業（地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動）と連携して実施した。参加者11名。

平成29年11月25～26日 「国立室戸青少年自然の家」（高知県室戸市）

- ③ 日帰りコースの講習会 長野県において、現地NPO法人（やまぼうし自然学校、信州アウトドアプロジェクト）の協力を得て県内の青少年教育施設で実施した。参加者10名。

平成29年6月25日 「安藤百福記念自然体験指導者センター」（長野県上田市）

計 2, 204, 572円

### ○ 『野外教育情報』ニュースレターの発行・配布

野外教育に関する記事・情報を掲載した機関誌 ニュースレターを年2回発行した。平成29年7月には第6号〔特集：自然は偉大〕、平成30年2月には第7号〔特集：はじまり はじまり〕を発行して、教育センター・教育研究所、教育委員会（都道府県・主要都市）、青少年教育施設、小・中学校、大学、野外教育指導者・研究者など、約1, 200個所に配布（寄贈）した。

計 1, 379, 955円

## D. 医学・医療教育及び教育技術への研修支援

《医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修（いわゆるeラーニング）を計画している学会・医療機関・大学等に対して、MED I@（メディアット）システムの導入と運用、データ管理、コンテンツ等の制作と配信などに対して支援を行い、この分野でのeラーニングの普及・展開をめざす。》

### ○ 総会・学術集会等のネット配信のためのコンテンツの制作

次の各医学会の総会・学術集会での講義・講演を収録・編集して、インターネット上に配信するコンテンツを制作し支援した。

- ① 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会 第34回学会

平成29年7月23日～24日に、滋賀県大津市において開催された。「病院を飛びだそう！多職種でアレルギーケアの最前線へ」（橘 隆）「小児アレルギーエドゥケーター制度」（益子育代）など、10講義について収録のうえ配信した。

- ② 一般社団法人日本小児アレルギー学会 第54回学術集会

平成29年11月18日～19日に、栃木県宇都宮市で開催された。「小児気管支喘息の発症と

予防」(松本健治)「食物アレルギー診断と検査」(長尾みづほ)、「食物アレルギーへの免疫療法は? 経口免疫療法か、経皮免疫療法か」(勝沼俊雄)など、22講義について収録のうえ配信した。また、学会の小児アレルギースキルアップセミナーに関わるeラーニングのシステム管理・運用・コンテンツ制作にも協力した。

○ 資格認定のためのeラーニングの構築・運用

がん医療情報の国民への提供とその制度の確立をめざし、国民の福祉に貢献することを目的に、地域でのがん医療情報を収集・提供する「がん医療ネットワークナビゲーター」を養成するため、一般社団法人日本癌治療学会に協力して、その資格認定のためのeラーニングシステムの推進につとめ、コンテンツの制作、受講料決済システムの構築・収納、ホームページの整備等を支援した。

○ 学会の専門医養成のためのeラーニングへの支援

一般社団法人日本癌治療学会が運営する「がん医療を専門とする医師・チームスタッフのためのeラーニングプログラム」(CANCER e-LEARNING)のコンテンツの制作と配信、一般社団法人日本泌尿器科学会の専門医単位更新を目的とした講演配信サービスのためのeラーニングシステムの整備、視聴履歴の管理、コンテンツの制作などに協力した。

○ 市民公開講座のインターネット配信

日本緩和医療学会が東京都千代田区で行った市民のための公開講座(実施は29年2月)において、講演「緩和ケアとは?」(有賀悦子)「この10年の緩和ケア」(細川豊史)などを収録した後、一般市民も視聴できるように支援した。

計 20,407,974円

E. 研究報告誌の刊行・配布

《前年度に研究助成を行った研究成果を掲載した研究報告誌を年1回発行し、教育関係の諸機関・諸団体に寄贈し、成果の普及を図った。》

『教育研究情報』第49号(前年に研究助成を行った、研究実践校・研究団体・学会の研究成果と実践報告を掲載したもの)を平成29年10月に発行し、教育センター・教育研究所、教育委員会、青少年教育施設、大学、小・中学校(一部)など、教育関係の諸機関・諸団体約800個所に配布(寄贈)した。

計 602,314円

F. 世界点字作文コンクールへの支援

《視覚障害者の方々には点字と音声の架け橋を築く願いをもって、毎日新聞社点字毎日・オンキヨー株式会社との共催で、第15回コンクールを実施した。》

国内部門では、応募総数182編を選考の結果、最優秀オーツキ賞には京都府の小林由紀さん、「作詞賞」には奈良県の辻本唯衣さんが受賞した。

海外部門では、アジア・太平洋地域7か国20編、西アジア・中央アジア・中東地域13か国41編、ヨーロッパ地域19か国55編、北米・カリブ地域2か国14編の応募があり、それぞれ選考を行い優秀作品を表彰した。入選作品集は全国の公共図書館などに寄贈した。

計 4,000,000円

[スポーツによる教育：ゴルフアカデミー]

この事業は、前年度から休止している。

[その他 国際交流研修]

中華人民共和国の医師・看護師をわが国に招き、東京女子医科大学等で3か月程度の医療研修を実施する医療交流研修を前年度から試行した(法人会計による。)

## II. 処務の概要

### 1. 役員に関する事項

#### 【理事】

(平成30年3月31日現在)

	氏名	区分	就任年月日	現職等	備考
理事長	大舩 直人	常勤	平成28・5・26	オンキヨー(株) 名誉会長	平成22・12・9
理事	赤羽 正己	非常勤	〃	(株)プロストホールディングス 代表取締役	〃 18・4・1
〃	大舩 宗徳	非常勤	〃	オンキヨー(株) 代表取締役社長	〃 22・12・9
〃	岡本 行夫	非常勤	〃	(株)岡本アソシエイツ代表取締役	〃 23・4・1
〃	高崎 健	非常勤	〃	東京女子医科大学 名誉教授	〃 28・5・26
〃	竹田 幸男	非常勤	〃	(株)文理 元専務取締役	〃 18・4・1
〃	椿 勲	非常勤	〃	椿勲公認会計士事務所 代表 常任理事	〃 22・12・9
〃	土井 浩信	非常勤	〃	淑徳大学 名誉教授	〃 12・4・1
〃	中村 育夫	常勤	〃	東京女子医科大学 元事務部	〃 28・5・26
〃	福岡 政行	非常勤	〃	東北福祉大学 特任教授	〃 22・12・9
〃	森 勇	常勤	〃	(株)上総モナークカントリークラブ 前代表取締役 常任理事 事務局長	〃 24・5・28

(備考欄：初任年月日)

- ① 平成28年5月26日開催の定時評議員会において、新任理事2名と任期満了に伴う重任9名について、理事選任の決議が行われ、6月8日付けで東京法務局に理事変更登記の手続きを完了し、7月5日付けで内閣府に変更届出書を提出した。
- ② 平成28年5月26日開催の理事会において、代表理事（理事長）の選定を行い、6月8日付けで東京法務局に代表理事変更登記の手続きを完了し、7月5日付けで内閣府に変更届出書を提出した。

【 監 事 】

(平成30年 3月31日現在)

監 事	大平 健司	非常勤	平成28・5・26	大平健司公認会計士事務所代表	平成23・4・1
”	近田 直裕	非常勤	”	近田公認会計士事務所 代表	”

(備考欄：初任年月日)

- 平成28年5月26日開催の定時評議員会において、任期満了に伴う重任2名について、監事選任の決議が行われ、6月8日付けで東京法務局に監事変更登記の手続きを完了し、7月5日付けで内閣府に変更届出書を提出した。

【 評 議 員 】

(平成30年 3月31日現在)

	氏 名	区 分	就任年月日	現 職 等	備 考
評議員	大拙 時久	非常勤	平成28・5・26	オンキヨー(株) 元会長	平成22・12・9
”	岡田 八郎	非常勤	”	上総ターカントリークラブ 元代表取締役	” 22・12・9
”	佐藤 貢悦	非常勤	”	筑波大学 教授	” 12・4・1
”	下 嶋 忍	非常勤	”	(株) ファシリティ専務取締役	” 26・3・26
”	西村 正宏	非常勤	”	(株) キバンホールディングス 代表取締役	” 28・5・26
”	畑 史 郎	非常勤	”	(株)文理 前代表取締役会長	” 28・5・26
”	北條 良彦	非常勤	”	オンキヨー(株) 元特命担当	” 23・4・1
”	丸山 敏秋	非常勤	”	一般社団法人倫理研究所理事長	” 15・5・23

(備考欄：初任年月日)

- 平成28年5月26日開催の定時評議員会において、新任評議員2名と任期満了に伴う重任6名について、評議員選任の決議が行われ、6月8日付けで東京法務局に評議員変更登記の手続きを完了し、7月5日付けで内閣府に変更届出書を提出した。

## 2. 役員会に関する事項

### (1) 理事会

開会年月日	議 事 事 項	結 果
29年 5月16日	1) 平成28年度事業報告及び収支計算書類等の承認の件 2) 第9回(通算109回)定時評議員会招集の件	原案通り可決承認 〃
29年12月 7日	1) 本店事務所を、東京都中央区築地一丁目12番22号 コソビル に、平成29年12月7日に移転する件 2) 上記提案の決議があったとみなされる日は平成29年12月7日	書面決議に理事全員と 監事が同意し、 原案通り可決承認
30年 3月20日	1) 平成30年度事業計画及び収支予算案並びに資金調達及び設備 投資の見込みの承認の件	原案通り可決承認

### (2) 評議員会

開会年月日	議 事 事 項	結 果
29年 5月31日	1) 平成28年度財務諸表(計算書類等)の承認の件	原案通り可決承認

## 3. 寄付金に関する事項

寄付の目的	寄 付 者	申込金額	領収金額
助成等事業推進	個 人 大 船 直 人	41,500,000	41,500,000
〃	株式会社 文 理 (代表取締役社長 山川博昭)	500,000	500,000
	合 計	42,000,000	42,000,000



## 平成29年度事業報告 附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」  
第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

平成30年5月8日

公益財団法人 日本教育科学研究所